

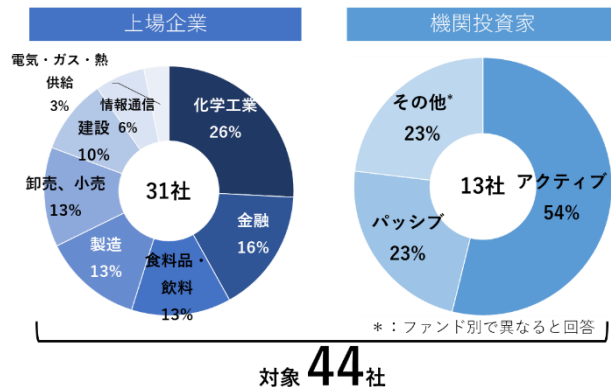
## 第 1 回 活動報告会 エクゼクティブサマリー

### ■活動の背景

多くの日本の上場企業が ESG に関わる情報開示を充実させる努力をしてきているものの、機関投資家からの評価は今ひとつの状況となっている。このギャップは何に起因するのか。そして、それはどのようにすれば克服できるのか。その実務レベルの答えをインベストメントチェーンに関わる上場企業・機関投資家・評価機関・第三者保証機関そして官公庁といったステークホルダーで共に導き出そうというのが本研究の大きな狙いである。

### ■課題解決に向けたアプローチ

ESG（本研究会では ESG に限定せず広く非財務を検討対象に設定）情報開示に関わる主要なイニシアティブとの意見交換によってグローバル動向の現状整理を行うとともに、国内外の上場企業・機関投資家（計 44 社）へのインタビューを通じて、実務レベルの課題の抽出を実施した。



### ■現状分析の結果

グローバル動向調査においては、2020 年以降、IIRC と SASB の統合が発表されるなど、様々な団体の動きが活発化していることが確認された。

また、実務レベルのインタビューを通して大きくは次の 6 つの課題が抽出された。「①上場企業と機関投資家との対話における視点のミスマッチ」「②価値創造ストーリーの個々の要素に繋がり・相互関連性を持たせた描出」「③ESG に関わる取組み及び開示の企業間差の拡大」「④ESG 情報の効率的な収集体制の確立」「⑤上場企業における経営トップのコミットメント」「⑥DX への対応」

### ■今後の活動方針

上場企業と機関投資家の認識ギャップを埋めるべく「LTV(Long-term Value)」を両者間の共通言語として、効果的で効率的な ESG 情報開示の在り方を探求する。具体的には、上場企業・運用機関などの実務家間の議論を通して基本的な用語や概念といった理論面の整理を行う。次に、それをもとに個社を題材とした実践例を蓄積することによって、実務で活用できる手引きの作成を行う。これらの成果については、今後の動向を注視しながら、適切なタイミングで情報発信等を行っていきたい。

## ■本フェーズ担当 PMO（有限責任監査法人トーマツ）からのメッセージ

本研究会の最初のステップとなる本フェーズに PMO として参加させていただいたことを大変光栄に思っております。ご指導いただいた座長の北川先生をはじめ、研究会執行部の皆様、また調査への協力をいただいた他の会計ファームの皆様、そして会員企業、インタビュー協力企業の皆様に感謝いたします。

本フェーズでは、44社もの先進企業、機関投資家に対し集中的にインタビューする機会に恵まれ、それにより今後の活動のベースとなるべき日本企業の ESG 情報開示の現状が見えてきました。それと同時に強く印象に残ったのが、多くの優秀な実務家の皆様が、現場で積み上げておられる実践の質と量です。この良質な実践の層の厚さこそが日本企業の強みであり、それを効果的に集約する装置として当会が機能することができれば、大きな成果につながり、外部への力強い発信も可能ではないかと思う次第です。

次フェーズ以降の活動を会員各位とともに進めることを楽しみにしております。



有限責任監査法人トーマツ  
パートナー

達協 恵子



有限責任監査法人トーマツ  
パートナー

増田 洋平



有限責任監査法人トーマツ  
シニアマネジャー

窪田 雄一



有限責任監査法人トーマツ  
シニアマネジャー

奥村 剛史